

2020年度事業実績

2020年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の中で、感染防止対策に十分配慮しながら、本学の教育理念である「愛と奉仕」の精神を基軸に、教育、研究、地域連携活動を柱として諸活動を展開した。

1 教育活動

(1) 教育方針

個々の学生に応じたきめ細かな支援を行いながら、学生の向学意欲を喚起し、より高く幅広い知識や技能を修得させるとともに、コミュニケーション能力を身に付ける教育を実践し、学生の満足度を高める教育に努めた。

(2) 教育活動

大学・大学院 756名、短期大学 270名の計 1,026名の在學生(2020年5月1日現在)に対して各学部学科の特性を活かして、多岐にわたる教育活動を行った。

また、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、授業は、対面方式(約70%)とオンライン方式(約30%)を組み合わせて実施し、学外実習については、一部時期を変更したり、学内実習に切り替えるなどして、ほぼ予定どおり実施した。

①大学

- ・ 総合人間学部言語文化学科では、新型コロナウイルス感染拡大に伴う渡航制限により、海外での実習や留学はほとんど実施できず、海外体験科目の履修は3名にとどまった。また、語学検定受験を奨励し、初めて英検準1級の合格者があった。カリキュラム改訂では、観光業界で活かせる言語と文化に関する科目群を設けた。
- ・ 生活心理学科では、基礎学力向上プログラムを実施し、初年度教育の充実を図り、専門教育への円滑な移行と学修の効率化につなげるとともに、就職支援科目等の受講を促し、社会人としての意識を持たせ、社会人基礎力の向上を図った。また、地域連携事業(笠岡市大島地区)に参加し、地域社会に貢献する意識を涵養した。
- ・ 地域マネジメント学部では、教室で学んだ基礎知識をもとに、1年次では大学近隣の学外に出て地域を知り、理解する力を身につけるとともに、2年次は真庭市、和気町に出かけ、同様の学習を行い、基礎力の充実を図った。また、3年次での地域マネジメント実習は、新型コロナウイルス感染拡大により、実習先や実習期間の変更も生じたが、自治体、企業、団体の18か所で39名が実習を行った。
- ・ 看護学部では、入学前教育や初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行を図るとともに、国家試験合格率100%を達成するため、計画的な試験対策に取り組み、保健師は100%で目標を達成したが、看護師は95.2%であった。
- ・ 助産学専攻科では、専門性と人間性を高める教育を通して、周産期医療に関する幅広い知識と豊かな教養を備えた人材を育成するとともに、助産師国家試験では、5年連続100%合

格を達成した。

②大学院

- ・ 看護学研究科では、看護学の動向や最新情報を取得するため学会に参加し、院生2名、教員5名が学会発表を行うとともに、学内では、種々の領域が共同・協力した研究活動に取り組んだ。

③短期大学

- ・ 健康栄養学科では、新型コロナウイルス感染症予防のため、講義科目はオンライン、実験・実習科目は感染防止対策をとり、対面で行った。2020年度からスタートした3年コースの入学生は40名あり、このうち6名が栄養士免許の他に調理師あるいは製菓衛生師の国家試験合格を目指している。栄養教諭の教職課程については、2021年4月からの設置が認可された。
- ・ こども育成学科では、授業の中にアクティブラーニングを取り入れ、学生が自ら学ぶ意欲と態度を身に付けさせた。また、3年コースでの苦手克服コースでは、ピアノ、作文指導等を細やかに対応した。ボランティアや地域連携活動については、コロナ禍で、活動が制限されたため、参加者が少なかった。

2 学生募集活動の強化

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オープンキャンパス・進学ガイダンス・高校訪問などにおいて、これまでの学生募集方法が一変するとともに、学校休業による学習・進路指導の遅れ、家庭収入の減少などの影響により、受験生の受験先選択にも大きな影響が生じた。
- ・ 直接、大学や短大の魅力を感じることができるオープンキャンパスは、出願促進に最も重要なイベントであるが、感染症予防のため、その一部については、中止やWeb型（1回）への切り替えを行った。参集型で実施できたもの（3回）については、事前予約や科別分離開催など最大限の感染対策を取りながら、体験内容も工夫改善を行いながら開催した。
- ・ 従来、全学一斉に実施していた募集活動のための事前研修を学科単位で実施し、高校訪問の必要性・目的・説明内容の共有化を図り、募集活動を展開した。
- ・ 言語文化学科の収容定員の増加、新たに開設した短大3年コース、開設3年目の地域マネジメント学部など、時代のニーズに応え、進化している本学の取組のアピールを積極的に行った。
- ・ 地域マネジメント学部では、高校生を対象とした地域マネジメントコンテストをオンラインで実施し、地域活動の重要性や本学部の内容をアピールした。
- ・ 社会人が学びやすいライフスタイルに合わせた学修システムである短期大学「3年コース」等のPRを行ったが、社会人学生の大幅な増加には繋がらなかった。（4名）
- ・ 聴講生の受け入れに関しては、説明会を開催し、開講科目の情報提供を行った。
（前後期 各3名）
- ・ 大学案内やリーフレット等の印刷物、新聞広告・TV-CMなどのマスコミ媒体、HP・SNS・ネット広告などのWEB媒体など、多様な媒体の中から効果的なツールを選定し、オープンキャンパスへの誘導や学部の取組の紹介などの効果的な情報発信に努めた。

- ・ 2021 年度入学生は、大学、短大、大学院合わせて 344 人（対前年度△9 人）となり、入学定員に対する充足率は、大学では 96.0%、短大で 80.6%となった。

◇2021 年度入学者の状況

	学部・学科		入学定員	入学者数	充足率(%)
大学	総合人間学部	言語文化学科	40 [30]	47 [43]	117.5 [143.3]
		生活心理学科	30 [30]	32 [32]	106.7 [106.7]
	地域マネジメント学部	地域マネジメント学科	50 [60]	47 [43]	94.0 [71.7]
	看護学部	看護学科	78 [80]	64 [80]	82.1 [100.0]
	計		198 [200]	190 [198]	96.0 [99.0]
	助産学専攻科		10 [10]	8 [9]	80.0 [90.0]
大学院	看護研究科		6 [6]	1 [2]	16.7 [33.3]
短期大学	健康栄養学科		80 [80]	73 [63]	91.3 [78.8]
	こども育成学科		100 [100]	72 [81]	72.0 [81.0]
	計		180 [180]	145 [144]	80.6 [80.0]
合計			394 [396]	344 [353]	87.3 [89.1]

※ [] 内は、2020 年度入学者

3 研究活動の活性化

地域ニーズに基づく研究活動、学内競争的研究費の配分及び競争的外部資金獲得を中心に活動を行った。

- ① 研究成果を積極的に公開するため、31 名の教員が論文発表 60 件、学会発表 74 回の計 134 回の発表を行った。
- ② 学内競争的研究費の配分については、教育改革公募研究支援経費（1 件 200 千円）として 4 件、学内研究補助金（1 件 300 千円）として 18 件、計 6,200 千円の配分を全学的に行った。これらの研究成果報告書の取りまとめは、山陽論叢に掲載するなど公開を進めている。
- ③ 競争的外部資金獲得については、科研費を 14 件 16,221 千円の補助金を獲得した。また、平成 27 年度から引き続いて教学事項の見直しを実施しつつ、「私立大学等改革総合支援事業」の申請を行い、タイプ 1 の「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の転換」（20,600 千円）に採択された。

4 学生支援の強化

(1) 学修支援の強化

退学が懸念される学生について、教授会でも対応策を協議し、アドバイザーやクラス顧問が根気強く指導にあたり、一人ひとりへの丁寧な対応に努め、修学意欲の維持・向上等を図ったが、1,026 名の在学生のうち、26 名が退学あるいは除籍となった。

退学の主な理由は、精神的・身体的理由、経済的理由、進路変更などであった。

◇退学・除籍者数

	学部・学科		現員数	退学・除籍者	率 (%)
大学	総合人間学部	言語文化学科	179 [170]	10 [13]	5.6 [7.6]
		生活心理学科	133 [135]	2 [6]	1.5 [4.4]
	地域マネジメント学部	地域マネジメント学科	121 [81]	3 [3]	2.5 [3.7]
	看護学部	看護学科	306 [317]	6 [5]	2.0 [1.6]
	助産学専攻科		10 [7]	0 [0]	0.0 [0.0]
大学院	看護研究科		7 [7]	0 [0]	0.0 [0.0]
短期大学	健康栄養学科		119 [96]	3 [3]	2.5 [3.1]
	こども育成学科		151 [135]	2 [3]	1.3 [2.2]
計			1,026 [948]	26 [33]	2.6 [3.5]

※ [] 内は 2019 年度

(2) 生活 (キャンパスライフ) 支援の充実

- ① 外国人留学生に対して、入学時のオリエンテーションをはじめ、ビザ申請、住宅斡旋、奨学金申請、事故対応、多岐にわたる相談に対して、適切な指導を行うとともに、卒業後の進路指導、就職活動の情報提供も実施した。
- ② コロナ禍の影響で学生のサークル活動は活性化せず、課外活動への参加率も 57.7% (2019 年度 83.9%) にとどまった。また、大学祭も日程を 1 日に短縮し、学内関係者のみで開催した。
- ③ 障がいの有無にかかわらず学園内で自立した生活が送れるよう「障がい学生支援のガイドライン」に沿って、必要な支援を行った。(新規申請 5名)

(3) 就職支援の強化

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により、企業の採用活動のオンライン化や採用活動の休止、縮小の中、就職率の向上のため、キャリアセンターと学科アドバイザー等との緊密な連携を図りながら学生一人ひとりが自信を持って就職活動を行い、納得のいく就職を決めることができるよう就職支援を行い、全学科で就職率 100%を達成した。

◇学科別就職率 (2021 年 5 月 1 日現在)

	大学			短期大学	
	総合人間学部		看護学部	健康栄養学科	こども育成学科
	言語文化学科	生活心理学科	看護学科		
就職率	100%	100%	100%	100%	100%

- ② 早い時期から就職意識を醸成するため、「就活塾」や「留学生就職ガイダンス」、保護者

や在学生を対象にした「就職懇談会」（保護者の参加者 31 人）を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している「卒業生による業界説明会」、「就職支援バス」、専門職を対象にした「保育士合同面談会」、「栄養士等業界説明会」、「実習病院就職説明会」の開催は中止した。

- ③ 「社会人入門」、「インターンシップ」、また県内優良企業と連携した「企業協働型ラーニング」を開講し、就職支援科目の充実を図った。また、公務員を就職先と考えている学生を対象に教育課程とは別に公務員試験対策講座を開講した。

・受講者数（基礎講座 24 名、集中講座 16 名）

- ④ 就職先企業を中心に企業訪問し、情報交換を行うとともに、卒業後 1 年を経過した卒業生及び就職先企業に対するアンケート調査を実施し、卒業生のフォローアップと企業との関係強化に努めた。

5 地域連携の推進

(1) 公開講座等の拡充

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、従来型の講座の開催は中止したが、本学のもつ専門的知見を地域社会に還元するため、Web 方式により実施し（11 講座）、Web 公開講座のチラシ 13,000 枚を配布し、本学の PR に努めた。

(2) 地域との連携事業の推進

地元「平井学区地域づくり会議」をはじめ、連携協定を締結している関係自治体等と連携し、規模を縮小するなど感染症対策を徹底して、19 件(2019 年度 38 件)の連携事業を行った。

また、地域社会の発展と学術の振興に寄与することを目的に、株式会社サンヨープレジャーと包括連携協定を締結した。

(3) ボランティア活動の推進

コロナ禍の状況下でのボランティア要請はわずかであったが、ポスターの掲示や学科を通しての情報提供を積極的に行い、学生に周知した。

7 月以降は、三密を避けるなどの感染症対策に配慮して、学科や部活、サークルによる特性を踏まえたボランティア活動に延べ 65 人（2019 年度 622 人）が参加した。

6 施設整備

- ① 学生が快適に学修できるよう、パソコン教室の更新、映像・音響設備の更新を行うとともに、本館及びD棟に Wi-Fi 環境を整備した。
- ② A 棟の耐震化、大規模改修に向けて実施設計を行うとともに、バリアフリー化について総合的な観点から検討を進めた。

7 大学運営の強化

(1) ガバナンスの強化

- ① 合同会議、教授会議、学科会議、各ワーキンググループ会議等が円滑に運営し、決定事項を組織内で共有し、その実現のため、それぞれの構成員が役割を果たした。また、時々の課題にタイムリーに対応できるよう機動的な開催に努めた。
- ② 自然災害をはじめとする不測の事態を想定し、緊急連絡体制を構築し、関係者に徹底した。また、消防訓練を実施し、学生および教職員の防災意識の啓発に努めた。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大を受けて、マスクの着用や手指の消毒、検温、机・椅子の消毒など感染防止対策を徹底するとともに、学長をトップとする危機管理委員会を開催し、迅速かつ適切に対応した。

(2) 広報活動の強化

- ① HPへの訪問者数を増やすため、ニュースやイベントをタイムリーに掲載するとともに、コロナ禍で開催できなかった参加型イベントの代替として、HP上でのWeb型のオープンキャンパスや公開講座用の特設サイトを設け、アクセス数は大幅に増加した。
 - ・2020年度アクセス数 756,990件（対前年度比 +244,618件）
- ② 山陽スピリット推進室を中心に、山陽学園大学、短期大学に所属するすべての学生・教職員の帰属意識を高めるとともに、「愛と奉仕」の精神に基づく教育を実践していることを学内に徹底し、マスコミ等を通じて学外に向けて広報した。

(3) 教職員の資質向上

- ① 全ての教職員は様々な機会（ティーチング・ポートフォリオの活用を含む）を活用して自己研鑽に努めた。
- ② 教職員の資質向上と適正な業務執行体制を確立するため、FD（Faculty Development 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み）、SD（Staff Development 事務職員の資質向上のための取り組み）を4回実施した。

8 山陽学園短期大学附属幼稚園

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大のため、臨時休園（4月21日～5月31日）もあったが、大学キャンパス内の散策や遠足、園外保育でも、自然の中の遊び、山登りなど幅広い自然体験を通して、心動かしながら家族以外の人とのかかわりを通して、心身ともに成長することができた。
- ・ 大学の先生から教わる英語教育での経験を、日ごろの生活に取り入れるなど、大学や地域との連携により、自立に向かう必要な経験や様々な活動への興味・関心を広げることができた。

◎数値目標達成状況（2020年度）

【定員の確保】				
1	2021年度の入学定員を100%確保する。	大学(2021年入学)	96.0 %	[99.0 %]
		短大(2021年入学)	80.6 %	[80.0 %]
2	志願者数の合計を10%増やす。	(2021年入学)対前年度比	89.3 %	[114.5 %]
			615 人	[689 人]
3	志願度の高い総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学を70%以上確保する。	(2021年入学)	78.5 %	[75.4 %]
4	山陽学園高校からの入学者を50人以上確保する。	(2021年入学)	40 人	[37 人]
【教育の充実】				
5	中途退学者・除籍者の割合を3.0%以下にする。		2.6 %	[3.5 %]
6	全学生のGPA平均値を2.4ポイント以上とする。	(前期)	2.6	[2.4]
	※GPA値=(授業科目の単位数×授業科目の評価点)÷授業科目の単位数	(後期)	2.5	[2.3]
7	学生による授業評価が3.9ポイント以上の授業の割合を90%以上とする。(専任教員の授業)	(前期)	93.9 %	[81.5 %]
	※後期はコロナ禍で評価中止	(後期)	— %	[88.3 %]
8	学修成果発表の機会を各学科で2回以上設定する。		100.0 %	[66.7 %]
9	アンケート調査により、「教育内容について満足している」と回答する学生が80%以上になるようにする。		51.9 %	[48.0 %]
【資格取得の推進】				
10	看護師国家試験の合格率100%を達成する。		95.2 %	[87.8 %]
11	保健師国家試験の合格率100%を達成する。		100.0 %	[94.1 %]
12	助産師国家試験の合格率100%を達成する。		100.0 %	[100.0 %]
【希望する就職の実現】				
13	全ての学科で就職率を100%にする。(言語、生活、看護、栄養、こども)		100.0 %	[100.0 %]
14	専門職への就職率を80%以上にする。[栄養]		88.0 %	[82.9 %]
	専門職への就職率を95%以上にする。[こども]		89.5 %	[92.5 %]
【研究活動の活性化】				
15	外部資金(科研費等)を15件以上獲得する。		14 件	[9 件]
			16,221 千円	[8,150 千円]
16	全ての教員が論文等の発表1件以上又は学会発表1回以上を行う。		38.3 %	[47.4 %]
			31 人	[37 人]
【地域連携・地域貢献の推進】				
17	大学・短大が主催(共催)する地域との連携事業を50件以上実施する。		19 件	[38 件]
18	学生のボランティア参加人数を延べ500人以上とする。		65 人	[622 人]
【その他】				
19	パブリシティによる情報発信を年間150件以上行う。		58 件	[138 件]
20	図書貸出冊数を学生一人当たり15冊以上とする。		4.8 冊	[8.5 冊]

※ [] は、2019年度実績